



## FTP、SSH、および SCP アクセス

この付録の構成は、次のとおりです。

- [IP インターフェイス](#) (1 ページ)
- [E メールセキュリティ アプライアンスへの FTP アクセスの設定](#) (2 ページ)
- [セキュアコピー \(scp\) アクセス](#) (4 ページ)
- [シリアル接続経由での E メールセキュリティ アプライアンスへのアクセス](#) (5 ページ)

### IP インターフェイス

IP インターフェイスには、ネットワークへの個別の接続に必要なネットワーク設定データが含まれています。1つの物理イーサネット インターフェイスに対して複数の IP インターフェイスを設定できます。IP インターフェイスまたは両方にインターネット プロトコルバージョン 4 (IPv4) または IP Version 6 (IPv6) を割り当てることができます。

表 1: インターフェイスに対してデフォルトでイネーブルになるサービス

		デフォルトで有効かどうか	
サービス	デフォルトポート	管理インターフェイス <sup>1</sup>	新規作成されたインターフェイス
FTP	21	非対応	×
SSH	22	対応	×
HTTP	80	対応	×
HTTPS	443	対応	×

<sup>1</sup> ここに示す「管理インターフェイス」の設定は、Cisco C170 および アプライアンスの Data 1 インターフェイスのデフォルト設定でもあります。

- グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) を使用してアプライアンスにアクセスする必要がある場合は、インターフェイスで HTTP、HTTPS、またはその両方をイネーブルにする必要があります。

- 設定ファイルのアップロードまたはダウンロードを目的としてアプライアンスにアクセスする必要がある場合は、インターフェイスで FTP をイネーブルにする必要があります。
- Secure Copy (scp) を使用しても、ファイルをアップロードまたはダウンロードできます。

IP インターフェイス経由のスパム隔離への HTTP または HTTPS アクセスを設定できます。

電子メール配信および仮想ゲートウェイの場合、各 IP インターフェイスは特定の IP アドレスおよびホスト名を持つ1つの仮想ゲートウェイアドレスとして機能します。インターフェイスを独立したグループに (CLI を使用して) 「参加」させることもできます。システムは、電子メールの配信時にこれらのグループを順番に使用します。

仮想ゲートウェイの参加またはグループ化は、大規模な電子メールキャンペーンを複数のインターフェイス間でロード バランシングする際に役立ちます。VLAN を作成し、他のインターフェイスと同様に (CLI を使用して) 設定することもできます。詳細については、[高度なネットワーク構成](#)を参照してください。

#### 関連項目

- [AsynOS によるデフォルト IP インターフェイスの選択方法 \(2 ページ\)](#)

## AsynOS によるデフォルト IP インターフェイスの選択方法

AsynOS は、[ネットワーク (Network) ]>[IP インターフェイス (IP Interfaces) ] ページまたは `ifconfig` CLI コマンドで表示された最も小さな番号の IP アドレスに基づいてデフォルト IP インターフェイスを選択します。当該のサブネット上に存在するリストの最初の IP インターフェイスが使用されます。

同一サブネット内で複数の IP アドレスがデフォルトゲートウェイとして設定されている場合、最も小さな番号の IP アドレスが使用されます。たとえば、次の IP アドレスが同一サブネット内で設定されているとします。

- 10.10.10.2/24
- 10.10.10.30/24
- 10.10.10.100/24
- 10.10.10.105/24

AsynOS はデフォルトの IP インターフェイスとして 10.10.10.2/24 を選択します。

## E メールセキュリティ アプライアンスへの FTP アクセスの設定

**ステップ 1** [ネットワーク (Network) ]>[IP インターフェイス (IP Interfaces) ] ページまたは `interfaceconfig` コマンドを使用して、インターフェイスに対して FTP アクセスをイネーブルにします。

**危険** サービスを `interfaceconfig` コマンドでディセーブルにすると、CLI との接続が解除されることがあります。これは、アプライアンスにどのように接続しているかによって異なります。管理ポートで別のプロトコル、シリアルインターフェイス、またはデフォルト設定を使用してアプライアンスに再接続できない場合は、このコマンドでサービスをディセーブルにしないでください。

**ステップ 2** 変更を送信し、保存します。

**ステップ 3** FTP 経由でインターフェイスにアクセスします。インターフェイスに対して正しい IP アドレスを使用していることを確認します。次に例を示します。

```
§ ftp 192.168.42.42
```

(注) ブラウザの多くは、FTP 経由でもインターフェイスにアクセスできます。

**ステップ 4** 実行しようとする特定のタスクのディレクトリを参照します。FTP 経由でインターフェイスにアクセスしたら、次のディレクトリを参照し、ファイルをコピーおよび追加（「GET」および「PUT」）できます。次の表を参照してください。

ディレクトリ名	説明
/configuration	<p>以下のコマンドからのデータがこのディレクトリにエクスポートされるか、このディレクトリからデータがインポート（保存）されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Virtual Gateway マッピング (<code>altsrchost</code>)</li> <li>• XML 形式の設定データ (<code>saveconfig</code>、<code>loadconfig</code>)</li> <li>• ホストアクセス テーブル (HAT) (<code>hostaccess</code>)</li> <li>• 受信者アクセス テーブル (RAT) (<code>rcptaccess</code>)</li> <li>• SMTP ルート エントリ (<code>smtproutes</code>)</li> <li>• エイリアス テーブル (<code>aliasconfig</code>)</li> <li>• マスカレード テーブル (<code>masquerade</code>)</li> <li>• メッセージ フィルタ (<code>filters</code>)</li> <li>• グローバル配信停止データ (<code>unsubscribe</code>)</li> <li>• <code>trace</code> コマンドのテストメッセージ</li> <li>• セーフリスト/ブロックリスト バックアップ ファイル (<code>slbl&lt;タイムスタンプ&gt;&lt;シリアル番号&gt;.csv</code> 形式で保存)</li> </ul>
/antivirus	<p>Anti-Virus エンジンのログファイルが保存されるディレクトリです。このディレクトリにあるログ ファイルを検査して、ウイルス定義ファイル (<code>scan.dat</code>) の成功した最終ダウンロードを手動で確認できます。</p>

ディレクトリ名	説明
/configuration	logconfig コマンドと rollovernow コマンドを使用する <b>ロギング</b> 用に自動的に作成されます。各ログの詳細については、 <a href="#">ログ</a> を参照してください。
/system_logs	
/cli_logs	ログ ファイル タイプの違いについては、「 <a href="#">ログ ファイル タイプの比較</a> 」を参照してください。
/status	
/reportd_logs	
reportqueryd_logs	
/ftpd_logs	
/mail_logs	
/asarchive	
/bounces	
/error_logs	
/avarchive	
/gui_logs	
/sntpd_logs	
/RAID.output	
/euq_logs	
/scanning	
/antispam	
/antivirus	
/euqgui_logs	
/ipmitool.output	

**ステップ 5** ご使用の FTP プログラムを使用して、適切なディレクトリに対するファイルのアップロードおよびダウンロードを行います。

## セキュアコピー (scp) アクセス

クライアントオペレーティングシステムで **secure copy (scp)** コマンドをサポートしている場合は、前述の表に示すディレクトリ間でファイルをコピーできます。たとえば、次の例では、ファイル `/tmp/test.txt` は、クライアントマシンからホスト名が `mail13.example.com` のアプリケーションの `configuration` ディレクトリにコピーされます。

コマンドを実行すると、ユーザ (`admin`) のパスワードを求めるプロンプトが表示されることに注意してください。この例を参考用としてだけ示します。特殊なオペレーティングシステムの **secure copy** の実装方法によって異なる場合があります。

```
% scp /tmp/test.txt admin@mail3.example.com:configuration
```

```
The authenticity of host 'mail3.example.com (192.168.42.42)' can't be established.
```

```
DSA key fingerprint is 69:02:01:1d:9b:eb:eb:80:0c:a1:f5:a6:61:da:c8:db.
```

```
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes
```

```
Warning: Permanently added 'mail3.example.com ' (DSA) to the list of known hosts.
```

```
admin@mail3.example.com's passphrase: (type the passphrase)
```

```
test.txt 100% |*****| 1007 00:00
```

```
%
```

この例では、同じファイルがアプライアンスからクライアントマシンにコピーされます。

```
% scp admin@mail3.example.com:configuration/text.txt .
```

```
admin@mail3.example.com's passphrase: (type the passphrase)
```

```
test.txt 100% |*****| 1007 00:00
```

```
%
```

Cisco アプライアンスに対するファイルの転送および取得には、secure copy (scp) を FTP に代わる方法として使用できます。



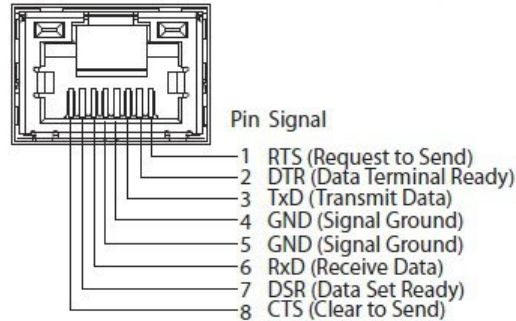
(注) operators グループおよび administrators グループのユーザだけが、アプライアンスへのアクセスに secure copy (scp) を使用できます。詳細については、[ユーザの追加](#)を参照してください。

## シリアル接続経由での E メールセキュリティ アプライアンスへのアクセス

シリアル接続を介してアプライアンスに接続する場合は、コンソールポートに関する次の情報を使用します。

このポートの詳細については、アプライアンスのハードウェアインストールガイドを参照してください。

## 80 および 90 シリーズ ハードウェアでのシリアルポートのピン割り当ての詳細



## 70 シリーズ ハードウェアでのシリアルポートのピン割り当ての詳細

次の図に、シリアルポートコネクタのピン番号を示し、以下の表でシリアルポートコネクタのピン割り当てとインターフェイス信号を定義します。

図 1: シリアルポートのピン番号

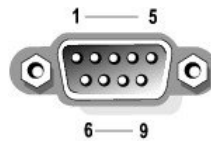


表 2: シリアルポートのピン割り当て

ピン	信号 (Signal)	I/O	定義 (Definition)
1	DCD		データ キャリア検出
2	SIN		シリアル入力
3	SOUT		シリアル出力
4	DTR		データターミナルレディ
5	GND	適用対象外	信号用接地
6	DSR		データセットレディ
7	RTS		送信要求

ピン	信号 (Signal)	I/O	定義 (Definition)
8	CTS		送信可
9	RI		リング インジケータ
シェ ル	適用対象外	適用対象 外	シャーシアース

